

巻 頭 言

多根総合病院 院長 小 川 稔

医療の効率化を目指すなかで、チーム医療の必要性が叫ばれていますが、働き方改革の基準を遵守しながら地域医療を守るためには、これまで以上に部署の垣根をこえた連携が必要になることは言うまでもありません。

各部署の専門性が強くなり、自分たちの知っていること、自分たちのしていることだけを「唯一の正しいこと」としてとらえてしまうと、やがてそれは人々の分断を深めて「会話を終わらせてしまう」という大きなリスクにつながります。

多様性を認めようというのは、それぞれの人が正しいと思うことを認め合わない「会話」というものがなくなってしまうけれどそれでいいのかという問いかけではないかと私は思っています。

いま組織に必要なのは、組織の中にいろいろな人がいて、いろいろな考えが混在していることを認識して、それを前提にしてお互いが連携する、すなわち「会話をやめない」ことです。最近、これがうまくいっている状態を「心理的安全性が高い」と言ったりしますね。「心理的安全性が高い」組織こそ、当院が目指す組織像だと思います。

この、多根総合病院医学雑誌というのは、医師、看護師のみならず、各専門職が力を合わせて作り上げる貴重なツールです。部署の垣根を越えた連携を大切にする風土を培うためにも、今後ともこの医学雑誌がいっそう充実していくことを願っています。

2025 年 8 月 記